TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

これが神のやり方-神さまが計画された救いの方法-

新しい いのち ローマの信徒への手紙 6 章 1 節～14 節

2026 年 9 月 26 日 & 27 日

余沢 武 牧師

I. はじめに

皆さん、こんにちは。今日も引き続き、ローマ人への手紙を学んでいきましょう。

パウロは、私たちは皆、神さまを創造主として認めることができず、罪を犯し、神さまから罰を受けるべき存在となったと語っています。

しかし、私たちの代わりにその罰を受けてくださったイエスを信じることによって、私たちは義と認められ、神さまとの平和を持ち、神の恵みの中に立つことができます。そして、苦難の中でも、神の栄光への希望を持ち、神さまを誇ることができるのです。
全人類を代表するアダムによって、私たちは皆、罪を犯し、死に支配されるようになりました。

しかし、イエスを信じるすべての人を代表するイエスによって、私たちは神さまと共に、いのちの中で生きるようになります。律法は、罪を増し加えるため、つまり、私たちにどれほど多くの罪があるのかを明らかにするために与えられました。しかし、罪が増し加わるところには、恵みがさらに満ちあふれます。

今日は、これらすべてを踏まえて、**私たちはクリスチャンとしてどのように生きるべきなのか**を見ていきます。

その前に、祈りましょう。

II. 新しいいのち

(1) 罪の中にとどまり続けるべきでしょうか？

ローマの信徒への手紙 6 章 1～2 節を見てみましょう。「[1] 何と言うべきでしょうか。恵みが増すようにと、罪にとどまるべきだろうか。[2] 決してそうではない。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう。」

パウロは、「罪が増し加わるところには、恵みがさらに満ちあふれる」と語りました。しかし、そのことばを聞いて、「それなら、罪を犯せば犯すほど良いのではないか。そうすれば、神の恵みをもっとたくさん受けられるのだから」と誤解する人がいるかもしれません。

私が小学生だった頃、週に一度、家の階段に掃除機をかけるというお手伝いを任されていました。その仕事を終えると、一週間のお小遣いとして 150 円をもらっていました。さらに考えれば、階段だけでなく、リビングやダイニングなど、もっとたくさんの場所に掃除機をかければ、もっとお金をもらえるのでしょうか。実際には、母が「お小遣いなしで掃除しなさい」と言えば、それでも掃除をしなければなりませんでした。そのお小遣いは、**恵みとして与えられていたもの**だったからです。母の意図は、もっと掃除をして、もっとお小遣いをもらうように勧めることではありませんでした。

それと同じように、クリスチャンが罪を犯したとき、神さまは神の恵みによって私たちを赦してくださると約束されています。

しかし神さまの意図は、私たちがもっと罪を犯して、もっと恵みを受けるようにすることではありません。それだけではありません。パウロは、「罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおも罪の中に生きることができるでしょう。」と言っています。

クリスチャンとは、**「罪に対して死んだ」人々**なのです。かつて私たちはアダムに代表されるように、自分自身の考えや欲望に従い、神さまに対して罪を犯していました。しかし今、私たちはイエスに代表される、神さまを信頼し、神さまに従う者となりました。

だからこそ、私たちは神さまの赦しの恵みを受けているのです。それなのに、再び罪へ戻り、アダムに代表されていた頃と同じことをするのでしょうか。パウロは言います **“決してそうではない!” と。**

(2) キリストと一つにされる

ローマの信徒への手紙 6 章 3 節～5 節にはこう書かれています。「[3] それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにあずかる洗礼（バプテスマ）を受けた私たちは皆、キリストの死にあずかる洗礼（バプテスマ）を受けたのです。[4] 私たちは、洗礼（バプテスマ）によってキリストと共に葬られ、その死にあずかる者となりました。それは、キリストが父の栄光によって死者の中から復活させられたように、私たちも新しい命に生きるためです。[5] 私たちがキリストの死と同じ状態になったとすれば、復活についても同じ状態になるでしょう。」

ここでパウロは、クリスチャンを**「キリスト・イエスにあずかる洗礼（バプテスマ）を受けた私たちは」**と表現しています。

当時は「バプテスマを受けていないクリスチャン」という考え方は一般的ではなかったため、すべてのクリスチャンが理解できるものとして、パウロは洗礼という

言葉を用いて、私たちとイエスとの関係を説明しています。パウロは、私たちはイエスの「死」と「復活」において、**イエスと一つにされた**と言っています。

「一つにされた」と訳されるギリシャ語「**symphyein**」は、植物が互いに絡み合いながら一緒に成長していく様子を表す言葉です。

ご存じの方もいると思いますが、私はベランダで果樹を育てるのが好きです。最初に育て始めた頃、一つ失敗をしました。同じプランターの中に、何本もの小さな木を一緒に植えてしまったのです。一年ほど経って木々が大きくなり、プランターが狭くなったので、それぞれを分けようとしました。ところが、そのとき、すべての根が互いに絡み合っていることに気づきました。これが「一つにされる」ということです。もう簡単には引き離すことができません。私は一体となっているのを何とか分けようとして、いくつかの根を切りました。すると、その木々は枯れてしまいました。

私たちとイエスとの関係も、このようなものです。イエスを、私たちのために死んでくださったお方として受け入れ、イエスを信頼すると決心したとき、**私たちはイエスと一つにされます。**

そして、その新しい関係をバプテスマによって表します。私たちは**イエスの死につくバプテスマ**を受けます。

水の中に入るとき、「イエスが十字架につけられたとき、アダムに代表されていた罪人である私も死んだ」ということを表します。

私たちは**イエスと共に葬られます。**水の中にいるとき、「イエスが葬られたとき、アダムに代表されていた罪人である私もイエスと共に葬られ、アダムは去り彼とのつながりは終わった」 ということを表します。
私たちは**新しいいのちの中を歩み始めます。**

水の中から上がるとき、「イエスが死者の中からよみがえられたとき、私もイエスと共に新しいいのちへとよみがえった」ということを表します。私たちのいのちは、イエスと一つです。互いに絡み合い、一つにされています。パウロは、それこそがバプテスマによって表されていることだと言っています。ですから、どのような形であっても罪を追い求めることは、**イエスにある私たちの「新しい性質」に反すること**なのです。

(3) 新しいいのち

ローマの信徒への手紙 6 章 6～7 節にはこうあります。「[6] 私たちの内の古い人がキリストと共に十字架につけられたのは、罪の体が無力にされて、私たちがもはや罪の奴隷にならないためであるということを、私たちは知っています。[7] 死んだ者は罪から解放されているからです。」

パウロは、私たちが知っておくべきことを次のように語っています。イエスが十字架につけられたとき、罪に支配され、アダムに属していた「古い自分」もイエスと共に十字架につけられたのです。 ですから、私たちは罪から、その支配する力から、そして罪の奴隷状態から解放されました。

「でも、私は今でも罪と戦っています」と思うかもしれません。パウロは、罪の存在そのものがなくなったと言っているのではありません。パウロが言っているのは、**罪が私たちを支配し、コントロールする力から解放された**ということです。これは大きな違いです。

マーティン・ロイド-ジョンズ博士は、これを上手に説明しています。田舎に、高い石の壁で囲まれた二つの土地があると想像してください。すべての人は、そのうちの一つの土地で人生を始めます。それは、**サタンと罪に支配されている土地**です。私たちには、その壁を自分で乗り越えて逃げ出す力はありません。

しかし、イエスを信じると、神さまは私たちをサタンの土地から連れ出し、もう一つの土地へ移してくださいます。それは、**イエスと義によって支配されている土地**です。私たちは、もはやサタンと罪に支配されてはいません。

しかし、サタンは今でも壁の向こう側から私たちに呼びかけることができます。長年の習慣のために、時にはその声に従って罪を犯してしまうことがあります。しかし、従う必要はありません。罪は、もはや私たちを支配してはいません。

イエスの助けをかりて、その声を無視することができるのです。**私たちは罪から解放されているのです。**ローマの信徒への手紙 6 章 8～11 節にはこう書かれています。「[8] 私たちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。[9] そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。[10] キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。[11] このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きている者だと考えなさい。」

私たちが知っておくべき二つ目のことは、**私たちは今、「神に対してはキリスト・イエスにあって生きている」**ということです。

神さまがアダムを造られたとき、アダムはまだ動かない存在でした。しかし、神さまが彼にいのちの息を吹き込まれると、アダムは生きる者となりました。アダムは神さまを自分の創造主として認め、神さまの声を聞き、神さまを信頼し、神さまに従うことができました。私たちもイエスを信じると、**信仰において新しいいのちを得ます。**神さまを私たちの創造主として認めるようになります。

聖書を読むことによって、以前は何の意味も感じなかった御言葉が生きたものとなります。そこから神さまの声を聞くようになります。

神さまとその**御言葉**を信頼し、従うようになります。

そしてイエスのように、**「父なる神さまがなさることを、私も行います」**という生き方をするようになるのです。

（4）適用

ローマの信徒への手紙 6 章 12～14 節にはこうあります。「[12] ですから、あなたがたの死ぬべき体を罪に支配させて、体の欲望に従うようなことがあってはなりません。[13] また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に献げてはなりません。かえって、自分自身を死者の中から生かされた者として神に献げ、自分の五体を義のための道具として神に献げなさい。[14] 罪があなたがたを支配することはありません。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるからです。」

私たちは「律法の下にではなく、恵みの下に」いるのです。 私たちが律法やアダムの下にいた時、罪が私たちを支配していました。

「この世の欲望」―肉の欲、つまり身体的な欲望、目の欲、つまりお金、そして持ち物を誇ること、つまり成功や名声―そうしたものが自分に喜びを与えてくれると信じていました。私たちは今、**恵みの下にいます。**神さまに対して生きる者となり、神さまを完全に信頼し、神さまに従い、**神の御心を行うために自分自身をささげるのです。**

ルイ・ギグリオ牧師が以前訪れた、象の園についての話をしたことがあります。タイには、象のすぐ近くまで近づくことができる施設があります。

象のそばまで行くと、幅わずか 3～4 ミリほどの、古く、擦り切れ、雨風にさらされた細い麻ひもが見えます。そのひもは、象の足と杭をつないでいます。そして驚くことに、その細い麻ひもが、そこでの安全を守っているのです。ひもの長さは約 2.5 メートルです。その距離を保っていれば安全です。

象園での楽しみは、サトウキビやバナナをたくさん買って象に近づき、餌をあげます。象に近づくことが出来ます。ただし、杭から 2.5 メートル以上近づいてはいけません。驚くべきことに、どれほど大きな象でも、その麻ひもが 2.5 メートルいっぱいまで張ると、そこで止まります。本当は、あと一歩踏み出せば、その細い麻ひもなど簡単に切れてしまいます。

そうなれば、こちらも大変なことになります。しかし、象はその一歩を踏み出しません。なぜでしょうか。象がまだ小さく、歩き始めたばかりの頃、その足には重い鎖がつけられ、金属の杭で地面に固定されます。何週間もの間、昼も夜も、その小さな象は鎖を引っ張り続けます。足の皮がむけ、傷つき、血が出るほどになっても引っ張ります。そしてついには、こう学んでしまうのです。**「これ以上進もうとすれば痛い。自分はここから先へは行けないんだ。」**

ある程度成長すると、重い鎖は細いひもに、金属の杭は木の杭に替えられます。しかし、その象は大人になってからも、生涯、そのひもの長さを超えて進もうとはしません。**もうそこにとどまる必要などないことに象は気付いていないのです。**

私たちにも、生まれたときから一つの偽りが働きかけています。そして私たちの考え方に、**「満足を得るためには、この世のものが必要だ」**という考えを刻み込もうとします。身体的な欲望、金銭欲、成功、名声。そうしたものによってしか満足できないと思わせるのです。

かつて私たちはアダムの下にいました。そこから自分の力で逃れることはできませんでした。私たちは今救われているのです。それでも今も私たちは、**「人生とは、この細いひもにつながれているものだ」**という変わらぬ生き方をしていることがあります。

しかしパウロは言います。**「違います。皆さんは今、キリストの下にいます。自由にされたのです。今、皆さんは神さまに対して生きる者となったのです。そのようなものに自分の人生をささげる必要はありません。自分自身を神さまにささげ、神さまのご性質と御心にしたがうのです。」**

もしあなたがイエスを信じているなら、**私たちは自由にされています。**イエスは、そのひもをすでに断ち切ってくださったのです。私たちは今、**イエスと一つにされています。恵みの下にいます。**

今でも罪を犯してしまうことはあります。しかし、**罪はもう私たちを支配してはいません。**

ですから、自分のからだを罪やこの世のものに差し出すことをやめ、**自分自身を神さまにささげることができます。**

そして、イエスと共に**「父なる神さまがなさることを、私も行います」**と言える人生を歩んでください。

今日、そのように生きてください。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://gotbc.org/sg3926jp

TBC カレンダー
（TBC のスケジュールが確認できます）
https://tokyobaptist.org/calendar

★クラス 301
自分の賜物を発見しよう！
10 月 10(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ラングホール(B1)
参加条件: クラス 101, 201 を修了した TBC のメンバー

★クラス 210
スモールグループについて知ろう！
10 月 18(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ラングホール(B1)
参加条件: どなたでも

全クラスの申し込み：
https://t-b-c.us/classes

急募！

奉仕者募集中！

1.日本語訳レイアウト&印刷

（女性 2 名募集）

英語のスキルは必要ありません。
・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成&印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

2.礼拝メッセージ翻訳

・1 ケ月半～2ケ月に 1 度、自宅でできます。
スケジュールは都合に合わせて選べます。
英語と日本語が出来る方

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org